



新刊案内



商工信用録類の学術的意義を明らかに !!

戦前期商工信用録解題

—詳細とその活用法—

●阿部武司(大阪大学名誉教授)著

●体裁: B5判・並製 55頁

●定価: 本体 1,500円 + 税

ISBN978-4-910672-25-0 C3033

2023年7月26日発売

『明治大正期 商工資産信用録』(全15巻)、『昭和前期 商工資産信用録』(全12巻)、『明治大正期 商工信用録』(全20巻)、『昭和前期 商工信用録』(全12巻)それに『明治大正期 帝国信用録』(第1回全5巻、2023年6月現在)の復刻版既刊・刊行中の資料集について全体的な解題を試みた画期的な論考。

大手興信所(商業興信所・東京興信所・帝国興信所)がその調査力を武器にして取りまとめた刊行物の一つ信用録は、今日では経済史や経営史の研究を進めるうえで重要な資料となっている。

個人経営や会社組織の企業の社会的信用度を資産額(当時の言葉では「正味身代」)や納税額という客観的な基準に基づいて評価し公開する興信所は、日本の近代化に不可欠であると判断した外山脩造や渋沢栄一などのビジネス・リーダーたちが設立した。

商工信用録の沿革、特徴、活用のされ方を検討し、商工信用録類の学術的意義を明らかにする。

特に「符号表」の解説・分析は秀逸!!

表1 三大興信所の業績の推移

年	商業興信所			東京興信所			帝国興信所		
	会員数		調査回答 件数	会員数		調査回答 件数	会員数		調査回答 件数
	内国会員	外国会員		内国会員	外国会員		内国会員	外国会員	
1900	493	16	37,430	349	28	17,681	86	0	386
1901	594	23	37,238	410	44	14,207	136	0	498
1902	665	29	41,571	623	57	18,537	75	0	293
1903	846	35	40,151	876	70	20,643	62	0	285
1904	894	47	38,104	966	73	21,805	96	0	382
1905	1,031	62	39,553	1,063	79	25,305	123	0	429
1906	1,230	78	47,558	1,300	106	30,341	486	9	1,446
1907	1,429	82	n.a.	1,478	114	32,389	1,799	18	7,151
1908	1,621	63	57,958	n.a.	n.a.	44,412	3,324	34	16,085
1909	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	66,449	4,485	46	24,501

(注) n.a.は不明。

(出所) 株式会社帝国データバンク創業百周年記念プロジェクト百年史編纂室編(2000)

『情報の世紀—帝国データバンク創業百年史』株式会社帝国データバンク、45頁、75頁。 一本文より

はじめに

第1章 日本における興信所の発展

第1節 欧米における興信所の発展

第2節 外山脩造と日本興信所

第3節 渋沢栄一東京興信所

第2章 興信所刊行資料について

—商工信用録を中心に—

第1節 興信所刊行資料の体系

第2節 商工信用録の書式

第3章 商工信用録を用いた研究

第1節 近代日本経済史・経営史における

資産家データの活用

第2節 商工信用録の活用例

おわりに—商工信用録の活用に向けて

参考文献

クロスカルチャー出版 101-0064 東京都千代田区神田猿楽町 2-7-6 電話 03-5577-6707 ファクス 03-5577-6708 <http://crosscul.com>

書店印	発行: クロスカルチャー出版	TEL: 03-5577-6707	FAX: 03-5577-6708
	戦前期商工信用録解題—詳細と活用法—		
	■定価: 本体1,500円 + 税		
	ISBN978-4-910672-25-0 C3033		
ご担当者 ()	冊	お名前	ご住所
			電話

【内容見本】

(2) 「商工信用録」

東京興信所編『商工信用録』では、1899（明治32）年刊行第1版から、筆者が確認できた限りで1940（昭和15）年刊行第81版までは、図6に掲げた1911（明治44）年刊行第25版にある東京府のサンプルページが示すように、府県別に個人の姓名（イロハ順。外国人は原則としてアルファベット順。ただし、遅くとも1941年11月刊行第83版では五十音順）、職業、簡略化された「店舗又ハ住所所在地」（例えば、「日、蛸殻、一ノ二」は「東京府東京市日本橋区蛸殻町1丁目2番地」）、開業年月（例えば「10年前」）、正味身代（アルファベット）、「商内高或ハ収入」（アルファベット）、「取引先ノ信用ノ程度」（アルファベット）、「参考」として前年度

図6 1911（明治44）年刊行・第25版

『商工信用録』東京府の例

姓 名	職業	住所	開業年月	正味身代	商内高或ハ収入	取引先ノ信用ノ程度	参考
五野 五郎
五野 三郎
五野 次郎
五野 一郎
五野 二郎
五野 三郎
五野 四郎
五野 五郎
五野 六郎
五野 七郎
五野 八郎
五野 九郎
五野 十郎
五野 十一郎
五野 十二郎
五野 十三郎
五野 十四郎
五野 十五郎
五野 十六郎
五野 十七郎
五野 十八郎
五野 十九郎
五野 二十郎

(出所) クロスカルチャー出版『明治大正期 商工信用録』第3巻

ないし各々年度の所得税額、「取調年月」（例えば「44.5」は明治44年5月）が、若干の文言の変更を除いてはほぼ変わらず記載されている。「正味身代」以下の3項目に関する符号表は図7の通りである。『商工信用録』は、書式をたびたび変更した『商工資産信用録』とは異なって、それが戦時になってようやくややく到達した詳しい書式を発足時にすでに確立し、戦時期までそれを一貫して維持していたのである。

(3) 『帝国信用録』

帝国興信所編『帝国信用録』のうち筆者が閲覧できたのは1909（明治42）年刊行第2版、および1917（大正6）年刊行第10版以降のいくつかの巻に限られるが、図8にみられるように、1909年刊行第2版では府県別に姓名（イロハ順。外国人名もカタカナ表記で日本人名の中には混入。1939年刊行第32版より五十音順）、職業、「店舗又ハ住所」（『商工資産信用録』および『商工信用録』と同様の略記）、開業年（「先代」のような書き方も混入）、「信用」（対物と対人に区分）、「年商内高又ハ収入」、および「盛衰」が調査項目であり、信用以下の諸項目には符号が付されている。その意味するところは図9の通りである。この符号表は、1926年刊行第19版所収のものだが、クロスカルチャー版第1巻に添えられている1912年刊行第5版のそれでは、上段の「ら」が1000円以上3000円迄とされ、図9にはない「む」1000円迄、「す」僅少、「う」無が加わっていた。同じ第5版の対人信用程度と盛衰の符号は図9のそれと全く同じであった。1917年刊行第10版の符号表でも、上段の「ら」は1000円以上3000円迄とあり、図9にはない「す」1000円迄が設けられていた。また、対人信用程度と盛衰の最高（アとカ）、最低（オとコ）には「最厚」というように「最」の文字が付けられていた。しかし、1934年刊行第27版では図9と、注の文言の一部修正（意味は変わらず）を除き同一の内容であった。『帝国信用録』も『商工信用録』と同じく、同一の書式をほぼ一貫して維持していたと判断される。

図7 商工信用録索引

商内高或ハ収入	正味ノ身代	類別	商内高或ハ収入
A	A	3,000,000円以上	A
B	B	2,500,000	B
C	C	2,000,000	C
D	D	1,500,000	D
E	E	1,000,000	E
F	F	750,000	F
G	G	500,000	G
H	H	300,000	H
I	I	250,000	I
J	J	200,000	J
K	K	150,000	K
L	L	100,000	L
M	M	75,000	M
N	N	50,000	N
O	O	35,000	O
P	P	20,000	P
Q	Q	10,000	Q
R	R	5,000	R
S	S	3,000	S
T	T	2,000	T
U	U	1,000	U
V	V	0	V
W	W	未詳	W
X	X	無	X
Y	Y		Y
Z	Z		Z

(出所) 東京興信所編『商工信用録』